

総合診療科

和田 晃

部長：和田 晃、副部長：中島 伸

医員：小笠原充幸

非常勤医師：河野匡子、和田万葉

招聘医師：松本謙太郎

総合診療科は、これまで各診療科、当直、研修医が個別に行っていた診療のうち、一般救急の中で専門診療科の特定が困難な症例や合併症を有する症例の診療を行い、また一般内科の初診症例の初療を担当する。このために内科全般についての広い知識・技能を核としさまざまな患者の状態に対応できる総合診療医として、救急患者の初療や症候診断、複数疾患を有する患者の診療能力を幅広く身につけた医師の育成を目指す。研修医、専修医に対しては総合診療医としての診断能力、治療手技の習得を目指す研修の場を提供している。さらに、1,2次救急症例を中心に診療看護師の育成をも担っている。

【2014年度研究発表業績】

A-0

Kawamura T, Yoshimura M, Miyazaki Y, Okamoto H, Kimura K, Hirano K, Matsushima M, Utsunomiya Y, Ogura M, Yokoo T, Okonogi H, Ishii T, Hamaguchi A, Ueda H, Furusu A, Horikoshi S, Suzuki Y, Shibata T, Yasuda T, Shirai S, Imasawa T, Kanozawa K, Wada A, Yamaji I, Miura N, Imai H, Kasai K, Soma J, Fujimoto S, Matsuo S, Tomino Y; Special IgA Nephropathy Study Group. A multicenter randomized controlled trial of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy in patients with immunoglobulin A nephropathy. *Nephrol Dial Transplant* 2014, 29: 1546-53 (2014年)

A-4

山口壽美枝：診療看護師（JNP）として活動してよりよいチーム医療づくりとは-機構病院の医療の向上に寄与できるか-「国立医療学会誌 医療」68(7): 347-350、2014年7月

A-4

和田晃、山川智之、西川慶一郎、長谷川廣文、椿原美治：大阪府下の結核症の現況 2014「大阪透析研究会会誌」32(2): 199-205、2014年9月

A-4

和田晃：透析患者の結核感染症「Nephrology Frontier」13 (4):30-34、2014年12月

A-6

中島 伸：「即レス」のすすめ「日本医事新報」4714:24、2014年

A-6

中島 伸：アウトカムとは何ぞや？「レジデントノート」16(1):138-140、2014年

A-6

中島 伸：最後の作戦「レジデントノート」16(3):599-601、2014年

A-6

中島 伸：当直日誌あれこれ「レジデントノート」16(4):775-777、2014年

A-6

中島 伸：小さな助言，大きな効果「レジデントノート」16(5):1213-1215、2014年

A-6

中島 伸：よきリーダーとは？「レジデントノート」16(7):1389-1391、2014年

A-6

中島 伸：症例報告作成のヒント「レジデントノート」16(9):1781-1782、2014年

A-6

中島 伸：最良の英語リスニング教材「レジデントノート」16(10):1943-1945、2014年

A-6

中島 伸：私が周回遅れでした「レジデントノート」16(12):2335-2337、2014年

A-6

中島 伸：新しい科学の形かも？「レジデントノート」16(13):2516-2518、2014年

A-6

中島 伸：正常圧水頭症「レジデントノート」16(14):2720-2722、2014年

A-6

中島 伸：精進重ねた2, 3年「レジデントノート」16(15):2905-2907、2014年

A-6

中島 伸：モノ捨てのすすめ「レジデントノート」16(16):3060-3062、2014年

A-6

中島 伸：ニセ脳卒中「レジデントノート」16(18):3481-3483、2014年

B-3

和田晃、山川智之、椿原美治、長谷川廣文：大阪府下の透析患者の結核の現況～大阪透析研究会・大阪透析医会合同実態調査。第59回日本透析医学会学術集会、神戸、2014年6月

B-3

岡垣篤彦、伊藤孝仁、和田晃：基幹病院透析医療におけるファイルメーカー運用。第59回日本透析医学会学術集会、神戸、2014年6月

B-4

藤村龍太、倭成史、島陽子、森影直子、中野知沙子、和田晃、伊藤孝仁、福田泰也、大宮英泰、高見康二：特発性間質性肺炎の急性増悪に対し、PMX-DHP療法とrTM（トロンボモデュリン製剤）の併用療法が奏効した一例。第59回日本透析医学会学術集会、神戸、2014年6月

B-4

藤村龍太、島陽子、森影直子、中野知沙子、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：腎 resistive index 高値は血清アルブミン濃度低下に關与。第57回日本腎臓学会学術集会、横浜、2014年7月

B-4

山口壽美枝：救急医療における多職種連携・看護師の立場からMSWとの協働のあり方。第17回日本臨床救急医学会総会・学術集会、東京、2014年6月

B-6

高折佳央梨、中野知沙子、島陽子、藤村龍太、倭成史、加藤研、山本和義、矢嶋敬史郎、和田晃、伊藤孝仁：血友病A合併の1型糖尿病性腎症に対して腹膜透析を導入した1症

例。第 205 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2014 年 9 月

B-6

光井悠人、和田万葉、松本謙太郎、中島伸、小笠原充幸、和田晃：発熱、頭痛、リンパ節腫脹にて発症した急性 HIV 感染症の 1 例。第 207 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2015 年 3 月

B-6

藤森なぎさ、多田雄真、柴田純一、池宮裕太、藤井順也、湊拓巳、峰松佑輔、宮川幸恵、池田弘和、井上信正、石村圭位、小笠原充幸、和田晃、藤村龍太、倭成史、伊藤孝仁、：血栓性血小板減少性紫斑病に対して、血漿交換療法とトロンボモデュリン製剤とステロイドによる集学的治療が奏効した一例。第 84 回大阪透析研究会、大阪、2015 年 3 月

B-6

深井照美：意識障害・認知症患者に対する身体診察で学んだこと～大腿骨転子部骨折の患者を担当して～ 第 3 回一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会研究会、東京、2014 年 11 月

B-6

山口壽美枝：軽症なⅡs 度顔面熱傷を契機に TSS を発症した 1 症例。 第 23 回日本熱傷学会近畿地方会、大阪、2015 年 1 月

B-6

山口壽美枝：救命救急センターにおける転院調整に難渋した症例への関わり。 第 3 回一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会研究会、東京、2014 年 11 月

B-6

深井照美：意識障害・認知症患者に対する身体診察で学んだこと～大腿骨転子部骨折の患者を担当して～ 第 3 回一般社団法人日本 NP 教育大学院協議会研究会、東京、2014 年 11 月

B-6

中島伸：脳外科外来を受診した他科救急疾患について 大阪脳神経外科救急研究会、大阪、2014 年 7 月

B-8

中島 伸：医療現場のリーダーシップ 7 大学連携先端のがん教育基盤創造プラン、
大阪、2014 年 7 月

B-8

中島 伸：ワールド・カフェについて 国立病院機構本部 平成 26 年度リーダー育成共
同宿泊研修、静岡、2014 年 9 月

B-8

中島 伸：医療事故と医事紛争の予防について 国立循環器病研究センター医療安全
講演会、大阪、2013 年 12 月

腎臓内科

伊藤孝仁

当科は、(1)慢性進行性腎疾患の診断と治療、(2)血液透析あるいは腹膜透析導入・腎移植への橋渡し、(3)腎機能障害者(維持透析中ならびに非透析期)に生じる血管合併症・骨合併症の予防ならびに診断と治療、(4)急性腎障害(Acute Kidney Injury、急性腎不全)の診断と治療、(5)ネフローゼ症候群の診断と治療、(6)HIV感染者診療における腎合併症の診断と治療・予防、(7)難治性高血圧の原因診断と治療、(8)副腎腫瘍や副甲状腺腫瘍の診断ならびに外科への橋渡し、(9)SIRSや敗血症に対する集学的治療サポート、(10)特殊体外循環治療のサポート、等を行っている。

慢性進行性腎疾患の代表例であるIgA腎症に対しては徹底した治療を行い高い寛解導入率を維持している。糖尿病性腎症に対しては、徹底した血管合併症の進行予防を行っている。難治性ネフローゼ症候群に対して、基礎研究機関等と連携して、より正確な診断と病態に則した適切な治療の提供を目指している。

腹膜透析治療は血液透析と異なる利点を有しており、現状より普及度を高める価値がある。現在は一部の症例にとどまるが血液透析との併用療法も提供している。今後も継続的に適応症例にたいして腹膜透析導入を推進する。

当院では多数の急性腎障害例がみられる。日常診療を通じて院内の治療成績向上に寄与したい。実際にはエンドトキシン吸着カラムと新世代の抗凝固薬であるトロンボモデュリンを組み合わせることにより、急性腎障害の回復並びに救命成績を大幅に向上させており、学会等で報告を行っている。より高い治療効果を目指していく。

当院はHIV感染症の拠点病院であり、多くのHIV感染者を治療している。HIV感染治療を行う免疫感染症内科と連携し、HIV自体による腎障害の診断と治療、抗ウイルス剤による腎合併症の早期診断と治療・予防、に貢献している。

当科では初期研修医ならびに後期研修医に対する教育を厳しく、かつ丁寧に行っている。初期研修医の診療習熟度向上に対して大きく貢献していると自負している。また後期研修では腎専門医育成を目標とし、非常に多岐にわたる当科の診療対象について、論理的な思考と的確な診断アルゴリズムと治療選択が行えるように努めている。

今後とも地域医療機関と連携し、急性期病院としての当科の利点を生かしつつ、社会に貢献できるよう心がけたいと考えている。

【2014年度研究発表業績】

A-3

倭 成史、小尾靖江、峰松佑輔、島 陽子、藤村龍太、森影直子、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁：血液透析患者における血中HMGB1及びFGF-23濃度と動脈硬化進展の関わりに関する検討。日本透析医学会誌 29(2)：P.286-291, 2014

B-2

Fujimura R, Takaori K, Shima Y, Nakano C, Yamato M, Wada A, Ito T. An increased sonographic resistive index is a risk factor for hypo-albuminemia in chronic kidney disease, independently of proteinuria and renal function. American Society of Nephrology, Philadelphia, USA, 2014年11月

B-3

倭 成史、峰松佑輔、伊藤孝仁：DICを併発した敗血症性ショックに対するPMX-DHPとリコンビナントトロンボモジュリン(rTM)併用療法～臓器障害スパイラル抑制効果
日本透析学会、神戸、2014年6月

伊藤孝仁：病態別栄養剤の有効性を問う 腎臓病栄養処方の留意点 関西PEG・栄養研究会、大阪、2014年6月

倭 成史、峰松佑輔：HMGB1制御としてのPMX-DHPとリコモジュリン 第25回日本急性血液浄化学会学術集会、千葉、2014年10月

伊藤孝仁：腎臓病用経腸栄養剤の選択と有効性に関する現況評価 日本静脈経腸栄養学会、神戸、2015年2月

B-4

倭 成史、藤村龍太、森影直子、中野知沙子、和田 晃、伊藤孝仁：保存期CKDにおける血中リンおよびPTH値の食後変化量の検討 第111回日本内科学会総会、東京、2014年4月

藤村龍太、倭 成史、島 陽子、森影 直子、中野知沙子、和田 晃、福田泰也、大宮英泰、高見康二、伊藤孝仁：特発性間質性肺炎の急性増悪に対し、PMX-DHP療法とrTM(トロンボモジュリン製剤)の併用療法が奏功した一例 日本透析学会、神戸、2014年6月

藤村龍太、島 陽子、森影直子、中野知沙子、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁：腎Resistive Index (RI)高値は血清アルブミン (Alb) 濃度低下に関与、日本腎臓学会総会、横浜、2014年7月

伊藤孝仁：CKDにおける低アルブミン血症発生のメカニズム 日本静脈経腸栄養学会、神戸、2015年2月

B-6

池宮裕太、峰松佑輔、湊 拓巳、藤井順也、柴田純一、倭 成史、伊藤孝仁、岡田俊樹：
腹水濾過濃縮再静注時の 発熱コントロールの可能性 第 24 回日本臨床工学会、宮城、
2014 年 5 月

倭 成史：敗血症性ショックに対する PMX-DHP とリコンビナントトロンボモジュリン
(rTM)併用療法 第 19 回大阪 DIC 研究会、大阪、2014 年 6 月

倭 成史：当院腎臓内科におけるサムスカの使用経験 心腎連関を考える会、大阪、2014
年 7 月

倭 成史：DAMPs としての HMGB1：急性期および慢性期における意義とその制御の
可能性 第 9 回大阪脳・心・腎セミナー、大阪、2014 年 8 月

柴田純一、峰松佑輔、宮川幸恵、湊拓巳、藤井順也、池宮裕太、倭 成史、伊藤孝仁、
岡田俊樹：DFPP による低フィブリノーゲン血症を 回避した安全で効果的な血漿処理量
の検討 第 83 回大阪透析研究会、大阪、2014 年 9 月

高折佳央梨、中野知沙子、島 陽子、藤村龍太、倭 成史、加藤 研、山本和義、矢嶋
敬史郎、和田 晃、伊藤孝仁：血友病A合併の1型糖尿病性腎症に対して腹膜透析を導
入した1症例 第205回日本内科学会近畿地方会、大阪、2014年9月

倭 成史：腎臓内科医がかかわる急性期、慢性期病態における炎症制御としての治療戦
略 CKD 病診連携セミナー、大阪、2014 年 11 月

高折佳央梨、中野知沙子、島 陽子、藤村龍太、倭 成史、加藤 研、山本和義、矢嶋
敬史郎、和田 晃、伊藤孝仁：血友病A合併の1型糖尿病性腎症に対して腹膜透析を導
入した1症例 8th PD clinic、大阪、2014年11月

倭 成史、峰松佑輔、藤井順也、宮川幸恵、湊 拓巳、柴田純一、池宮裕太、高折佳央
梨、富山陽子、藤村龍太、横島知沙子、和田 晃、伊藤孝仁：HMGB1 制御としての
PMX-DHP とリコモジュリン(rTM)[®] 第 19 回エンドトキシン血症救命治療研究会、宮
城、2015 年 1 月

倭 成史、峰松佑輔、藤井順也、宮川幸恵、湊 拓巳、柴田純一、池宮裕太、高折佳央
梨、富山陽子、藤村龍太、横島知沙子、和田 晃、伊藤孝仁：HMGB1 制御としての
PMX-DHP とリコモジュリン併用療法 第 81 回大阪腎疾患研究会、大阪、2015 年 2 月

梶谷憲司、横畠知沙子、高折佳央梨、富山陽子、藤村龍太、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：感染を契機に低ナトリウム血症を発症した1例 第81回大阪腎疾患研究会、大阪、2015年2月

藤森なぎさ、多田雄真、柴田純一、池宮裕太、藤井順也、湊拓巳、峰松佑輔、宮川幸恵、池田弘和、井上信正、石村圭位、小笠原充幸、和田晃、藤村龍太、倭成史、伊藤孝仁：血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）に対して血漿交換療法（PE）とトロンボモデュリン製剤（rTM）とステロイドによる集学的治療が奏功した一例 第84回大阪透析研究会、大阪、2015年3月

B-8

伊藤孝仁：HIV・エイズ透析治療の現状 HIV等血液感染予防に関する研修会、京都、2014年7月

伊藤孝仁：腎臓がとりもつ体液管理能力と食事の関係 日本臨床栄養学会認定臨床栄養医研修会、神戸、2014年7月

伊藤孝仁：透析医療機関等におけるHIV陽性者への対応について HIV地域透析医療機関研修会、大阪、2015年3月

糖尿病内科

瀧 秀樹

当科は糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め、QOL 改善に取り組んでいる。看護部・栄養管理室・薬剤科・臨床検査科・リハビリテーション科・口腔外科と糖尿病チームを組織し、共同で糖尿病教室・糖尿病デーの催しを行い患者への情報提供に取り組んでいる。また看護部とフットケア外来、看護部・栄養管理室と透析予防外来、看護部・栄養管理室と1型糖尿病外来を開設し専門医療を提供している。

国立病院機構の共同研究として、2型糖尿病を併せ持つ高血圧患者におけるメトホルミンの心肥大・心機能に対する効果の検討に参加している。

専修医の教育の一環として学会発表を行っている。

【2014 年度研究発表業績】

A-2

加藤研：高浸透圧高血糖症候群 「糖尿病研修ノート 改訂第2版」 永井良三 : 363-365 診断と治療社、東京、2014年11月

加藤研：「血糖値をめぐる88の物語」 村田敬 岡崎研太郎 : 129-132 中外医学社、東京、2014年11月

A-6

瀧秀樹：高齢者に適した血糖コントロールとは。南医師会会報 65 (3) : P.41-42、2014 年 11 月

瀧秀樹：高齢者に適した血糖コントロールとは。住吉区医師会報 389 : P.15、2015 年 1 月

B-4

森田灯子、加藤 研、大谷弥里、谷川 清、田矢直大、森本竹紗、光井絵理、片上直人、瀧 秀樹：当院 2 型糖尿病患者の EPA/AA 比の臨床的特徴と糖尿病食、蛋白制限食が EPA/AA 比に及ぼす影響の検討。第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会、大阪、2014 年 5 月

西村元伸、山田和範、鴻山訓一、河部康次郎、郡山暢之、齊藤美穂、鈴木誠司、利根淳仁、瀧 秀樹、田中剛史、加藤泰久：国立病院機構 EBM のための大規模研究 糖尿病腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理指針の確立 (HBP-DN) 最終報告。第 57 回日本

糖尿病学会年次学術集会、大阪、2014年5月

大谷弥里、高橋千尋、鳥山明子、中山 環、谷川 清、森田灯子、森本竹紗、光井絵理、加藤 研、瀧 秀樹：2型糖尿病患者における EPA/AA 比を用いた食事指導の有用性についての検討。第57回日本糖尿病学会年次学術集会、大阪、2014年5月

森住 蘭、加藤 研、大谷弥里、中山 環、谷川 清、田矢直大、森田灯子、光井絵理、伊藤孝仁、瀧 秀樹：当院での1型糖尿病診療における管理栄養士の役割。第68回国立病院総合医学会、横浜、2014年11月

中山 環、織原茉祐花、大土彩子、永妻佑季子、餅 康樹、高橋千尋、奥田沙、大槻朱美、森住 蘭、内藤由子、谷川 清、山尾美希、瀧 秀樹、伊藤孝仁：保存期CKD患者における浮腫率（ECW/TBW）と体組成・栄養摂取量の影響。第18回日本病態栄養学会年次学術集会、京都、2015年1月

B-6

森住 蘭、加藤 研、中山 環、谷川 清、田矢直大、森田灯子、光井絵理、伊藤孝仁、瀧 秀樹：1型糖尿病患者におけるカーボカウントの実践とQOLの検討。第51回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2014年10月

田矢直大、加藤 研、森田灯子、光井絵理、小幡紗貴子、安田哲行、瀧 秀樹：5年の経過を観察し得た α リポ酸が原因のインスリン自己免疫症候群の一例。第51回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2014年10月

中山 環、山尾美希、織原茉祐花、森住 蘭、大谷弥里、谷川 清、光井絵理、加藤 研、山有香、伊藤孝仁、瀧 秀樹：糖尿病患者における透析予防外来指導の効果。第51回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、2014年10月

加藤 研、橋本友美、川嶋 聡、広瀬正和、神内謙至、和栗雅子、川村智行、中嶋千晶、佐藤利彦、瀧秀樹：インスリンポンプ治療の患者会アンケートから示されるポンプ治療の現状について。第14回先進糖尿病治療研究会、徳島、2014年12月

B-8

加藤 研：「糖尿病の違いを知ろう 1型？2型？・あなたは何型糖尿病？」
～それぞれの病態・治療法について～。大阪健康セミナー、大阪、2014年4月

加藤 研：当院におけるリキスミア使用経験。第4回中央線糖尿病連携座談会、大阪、

2014年4月

森本竹紗、田矢直大、森田灯子、光井絵理、加藤 研、瀧 秀樹： α -GI内服中に腸管気腫症と門脈ガス血症を認め、中止により保存的に改善した一例。第8回大阪糖尿病臨床カンファレンス、大阪、2014年5月

瀧 秀樹：高齢者に適した血糖コントロールとは。住吉区医師会学術講演会、大阪、2014年5月

瀧 秀樹：高齢者に適した血糖コントロールとは。第1回大阪市中心区南医師会学術講演会、大阪、2014年5月

瀧 秀樹：糖尿病内服薬を見直してみましよう。第92回なにわ Doctor's Network、大阪、2014年6月

瀧 秀樹：糖尿病治療と地域連携について。糖尿病地域連携セミナー、大阪、2014年6月

加藤 研：1型糖尿病患者に対するトレシーバ®の有効性について～外来切り替え症例の経過から～。中央区1型糖尿病を考える会、大阪、2014年6月

加藤 研：糖尿病治療におけるインスリンポンプ療法の実際と応用。インスリンポンプクラブ、大阪、2014年6月

田矢直大、光井絵理、森田灯子、森本竹紗、加藤 研、廣田和之、矢嶋敬史郎、上平朝子、白阪琢磨、瀧 秀樹：HIV感染症治療中に1型糖尿病とバセドウ病を発症し、免疫再構築症候群と考えられた1例。第8回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス、大阪、2014年6月

瀧 秀樹：糖尿病とシックデイの対処法。Colorectal Cancer Frontier Meeting、大阪、2014年8月

瀧 秀樹：糖尿病とシックデイの対処法。Colorectal Cancer Frontier Meeting、大阪、2014年8月

田矢直大：経口薬治療におけるSGLT2阻害剤のポジショニングとは？。第2回 Diabetes seminar、大阪、2014年10月

加藤 研 : CGM を使用し SGLT2 阻害剤使用前後の血糖変動を観察し得た症例—著効例から効果不十分な症例まで—。糖尿病と感染症フォーラム、大阪、2014 年 10 月

加藤 研 : 1 型糖尿病患者のインスリンポンプ療法～SAP 療法について。Diabetes Researcher Committee、大阪、2014 年 10 月

加藤 研 : 患者兼医師の立場から思う事、1 型糖尿病治療を中心に～1 型糖尿病歴 28 年、潰瘍性大腸炎歴 25 年、医師歴 15 年の経験から～。第 6 回兵庫糖尿病療養指導セミナー、神戸、2014 年 10 月

加藤 研 : 糖尿病患者の EPA/AA 比～血糖コントロールと EPA/AA 比の関連について～。糖尿病クリニカルカンファレンス、大阪、2014 年 11 月

加藤 研 : 1 型糖尿病に対するインスリンポンプ治療の現状と展望～Real time CGM 併用の時代へ～。Diabetes Update Conference、大阪、2014 年 11 月

加藤 研 : 2 型糖尿病患者への SGLT2 阻害剤の使用経験と 1 型糖尿病患者への CSII 療法、Real time CGM 併用時代に向けた取り組み。第 5 回中央線糖尿病連携座談会、大阪、2014 年 11 月

瀧 秀樹 : 糖尿病内服薬を見直してみましよう。医療関係者のための学術講演会、大阪、2014 年 11 月

瀧 秀樹 : かかりつけ医におけるインスリン治療。平成 26 年度糖尿病日常診療の進め方研修会、大阪、2014 年 11 月

光井絵理 : SGLT2 阻害薬使用前後の体組成変化(In Body を用いて)。第 5 回糖尿病と脂質代謝を考える会、大阪、2015 年 1 月

加藤 研 : 1 型糖尿病患者に対する 3C 療法について～1 型糖尿病歴 29 年、医師歴 16 年の経験からすすめる治療法～。平成 26 年度内分泌代謝生疾患専門医研究会、京都、2015 年 1 月

加藤 研 : 患者兼医師の立場から思うこと、1 型糖尿病治療を中心に～1 型糖尿病歴 29 年、潰瘍性大腸炎歴 26 年、医師歴 16 年の経験から～。第 26 回小児思春期糖尿病談話会、大阪、2015 年 2 月

瀧 秀樹：糖尿病治療薬の使い方。大阪府病院薬剤師会第2支部研修会、大阪、2015年2月

加藤 研：1型糖尿病患者と主治医の関係～病歴29年を振り返る 理想の関係とは？。第50回 DMVOX、大阪、2015年3月

瀧 秀樹：糖尿病治療・薬物療法に対する考え方について。Meet the expert、大阪、2015年3月

血液内科

池田弘和

当院血液内科では、血液疾患全般について診療しています。具体的には、赤血球系では再生不良性貧血、溶血性貧血、白血球系では各種白血病、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫、止血・凝固系では特発性血小板減少性紫斑病などです。これらの疾患を適切に診断し、最新のガイドラインに沿いながら、患者さんの意向もふまえて個々のケースに最適な方法を選択し、治療を行います。病棟には無菌室が4床設置され、造血器腫瘍の治療では、通常化学療法に加え、自家末梢血幹細胞を主とした造血幹細胞移植支持による超大量化学療法も可能です。また、年齢、合併症や治療抵抗性により根本的な治療が困難な症例では、QOLを重視した治療法や緩和医療も選択しています。臨床的に特異な症例については学会等で報告し、また他施設とも協力して臨床研究を行っています。

【2014年度研究発表業績】

B-2

Tada Y, Kakunaga S, Mizuno K, Ikeda H, Inoue N, Kudawara I, Ueda T:Clinical Feature and Prognosis of Primary Malignant Lymphoma of Bone: A Single-Institutional Experience From Japan.The 10th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society Meeting, Melbourne, Australia, 2014年4月

B-4

Yamashita Y, Kamae T, Mitsui H, Ishikawa J, Yoshida H, Nakagawa M, Sato K, Sugahara H, Karasuno Y, Inoue N, Ikeda H, Kuyama J:Significance of traditional prognostic scoring system on event-free survival for CML on TKI therapy.第76回日本血液学会学術集会、大阪市、2014年10月-11月

Karasuno Y, Yamamoto K, Nozaki K, Kurashige R, Onishi M, Ujiie H, Sugahara H, Yamashita Y, Mitsui H, Yoshida H, Ishikawa J, Sato K, Nakagawa M, Ikeda H, Inoue N:The effect of reduced dose tyrosine kinase inhibitor (TKI) in chronic phase CML (CML-CP) patients 第76回日本血液学会学術集会、大阪市、2014年10月-11月

Yoshida H, Masaie H, Shingai Y, Ozawa T, Hino A, Karasuno Y, Sugahara H, Satoh K, Nakagawa M, Ikeda H, Inoue N, Yamashita Y, Kamae T, Mitsui H, Ishikawa J:

Dosage of TKI in first 3 months influences on the treatment response in chronic myelogenous leukemia 第76回日本血液学会学術集会、大阪市、2014年10月-11月

B-6

多田 雄真、池田弘和、水野香織、井上信正：末梢性T細胞リンパ腫の初回化学療法後、経過観察中にPET-CTにて消化管病変が指摘された一例 第48回北摂血液疾患談話会、大阪市、2014年11月

呼吸器内科

小河原光正

呼吸器内科は呼吸器悪性腫瘍（肺癌，胸膜中皮腫など）を専門として診療を行っており，呼吸器外科，放射線診断科，放射線治療科，臨床検査科と協同で肺癌の診断及び化学療法を含む集学的治療を行っている．また，気管支鏡診断に力を入れている．呼吸器外科と共同で肺癌の診断と治療に関する研究発表を行った．また，臨床腫瘍科と共同で研究発表を行った．

また，国立病院機構共同研究，大阪大学呼吸器内科/大阪府立成人病センター，徳島大学呼吸器・膠原病内科，近畿中央胸部疾患センターなどから依頼された多施設共同臨床試験へも参加・協力した．

呼吸器専門雑誌からの依頼により，講座「ピットフォール」の著述を担当した．

【2014 年度研究発表業績】

A-4

小河原光正：ピットフォール porous diaphragm syndrome. 「呼吸」34（2）：P192-198, 2015年2月.

B-4

多田雄真，長谷川裕子，岩崎竜一郎，榊原祐子，山田拓哉，中水流正一，小河原光正，久田原郁夫，三田英治：単施設における原発不明がんの後方視的検討. 第12回日本臨床腫瘍学会学術集会. 福岡，2014年7月.

高見康二，大宮英泰，小河原光正，栗山啓子，真能正幸，中森正二，関本貢嗣：肺癌手術における肺切除マージン洗浄細胞診に関する検討. 第55回日本肺癌学会総会. 京都，2014年11月.

脳卒中内科

橋川一雄

脳卒中内科は、脳神経外科とともに脳卒中治療の 24 時間体制を取り、脳梗塞や一過性脳虚血発作などの虚血性脳卒中を担当しています。近年、急性期脳梗塞治療の進歩にはめざましいものがあります。2005 年 10 月に rt-PA 静注による血栓溶解療法が保険収載とあり大きな話題となりました。2010 年 4 月に Merci リトリーバーが承認となり、急性期脳梗塞の血管内治療による血栓回収療法が開始されました。その後、2011 年 6 月に Penumbra システム、2013 年 12 月に Soitaire FR、2014 年 3 月に Trevo ProVue が承認となりました。また、2012 年 8 月には rt-PA 静注法の適応が 4.5 時間以内へ拡大されました。初期の血管内治療の成績は必ずしも従来の治療法を上回るものではありませんでした。しかし、ステント型血栓回収デバイスの開発や治療法の進歩があり、再開通率は飛躍的に向上してきました。2014 年 10 月にはオランダからステント型デバイスを主体とする MR CLEAN というランダムマイズ大規模研究が発表され、rt-PA 単独療法に対する血管内治療追加の有効性が示されました。続いて ESCAPE、EXTEND-IA、SWIFT PRIME の 3 つの大規模研究がやはり血管内治療の有効性を証明しました。現在、標準的治療となった血管内治療をできるだけ多くの症例に施行できる環境整備が急務となっています。当院も急性期脳梗塞治療の地域の拠点病院として体制を整えていく予定です。

動脈硬化によって頸動脈が狭くなる頸動脈狭窄症は脳梗塞の原因となります。頸動脈狭窄症は狭心症などと並んで全身の動脈硬化の一症状であり、最近では人間ドックや糖尿病患者のスクリーニングとして施行される頸動脈エコー検査で見つかることが多くなっています。頸動脈狭窄症はその程度に応じて外科治療が必要になることがあります。治療には手術によって血栓を取る頸動脈内膜剥離術とカテーテルによってステントを留置して狭窄部位を広げる頸動脈ステント留置術があります。当科では脳外科と協力して頸動脈ステント留置術を施行しています。

脳ドックの MRI によって無症候性脳梗塞（隠れ脳梗塞）や頭蓋内の血管に狭窄が見つかることがあります。最近では MRI の撮像法の進歩によって隠れ脳出血（微小脳出血）が見つかることも増えています。これらの病巣は将来の脳卒中発症を予見させる所見です。当科では、これらの所見を有する患者の精査を行います。脳 MRI/MRA、頸動脈エコー、経食道心エコー、脳血流 SPECT や脳血管撮影などを行い脳梗塞発症の危険因子を調べ、必要な治療や生活改善の指導を行い脳梗塞の予防を行っています。

以上のように当科では急性期脳梗塞治療から慢性期の脳梗塞危険因子の精査や指導を行っています。高齢者社会となり脳卒中は確実に増加しています。寝たきりになるもっとも多い原因が脳卒中です。健康寿命を延ばすために当科の役割が重要になってきていると責任を感じています。

【2014 年度研究発表業績】

A-0

Yukawa S, Yamamoto S, Hara H. Carotid Artery Dissection Associated With an Elongated Hyoid Bone. J Stroke Cerebrovas Dis 2014;23: e411-412、(2014 年 9 月)

A-3

石井淳子, 山本司郎, 吉村 元, 藤堂謙一, 川本未知, 幸原伸夫. 特発性好酸球増加症候群にLöffler心内膜心筋炎を合併し多発脳梗塞を発症した1例. 「臨床神経」 55(3):

P.165-170、2015年3月

B-3

山本司郎、木村陽子、大原寛明、村上泰隆、玄 富翰、小村江美、永野恵子、橋川一雄: 心原性脳塞栓症における梗塞巣最大径と出血性梗塞との関連。第 40 回日本脳卒中学会総会 広島市、2015 年 3 月

山本司郎、山中一功、梅原 徹、永野恵子、埜中正博、中島 伸、恵谷秀紀: 血管内超音波検査 (IVUS) が診断に有用であった解離性頸動脈瘤の一例。第 1 回心血管脳卒中学会学術集会 大宮市、2014 年 6 月

村上泰隆、永野恵子、大原寛明、木村陽子、玄富翰、山本司郎、小村 江美、橋川一雄: 心原性脳塞栓症における経口抗凝固薬開始に伴う出血性梗塞 NOAC とワルファリンの比較: 第 40 回日本脳卒中学会総会 広島市: 2015 年 3 月

B-4

山本司郎、山中一功、木村陽子、村上泰隆、大原寛明、山田修平、梅原 徹、黒田淳子、玄 富翰、永野恵子、中島 伸、橋川一雄: Penumbra system 直接吸引法による手技時間の短縮。第 30 回日本脳神経血管内治療学会総会 横浜市、2014 年 12 月

B-5

大原寛明、山本司郎、村上泰隆、木村陽子、玄 富翰、小村江美、永野恵子、橋川一雄: 排便後に一過性全健忘を繰り返した 1 例。第 207 回日本内科学会近畿地方会 大阪市、2015 年 3 月

山口 歩、大原寛明、山本司郎、村上泰隆、玄 富翰、小村江美、永野恵子、橋川一雄: 一過性の両上肢振戦と失語を繰り返し、半昏睡に至った 82 歳男性。The 38th NJM 大阪市、2015 年 3 月

山本司郎：不安定プラークを有する症候性頸動脈狭窄症に対する後拡張を省略した頸動脈ステント留置術。Fighting Vascular Events in Kobe 2014 神戸市、2014年11月

大畔健太、木村陽子、山本司郎、大原寛明、村上泰隆、玄 富翰、小村江美、永野恵子、橋川一雄：動揺する左黒内障・失語・右上下肢失調・感覚障害を呈した左総頸動脈閉塞症の一例。第6回近畿脳血管障害カンファレンス 大阪市、2014年5月

村上泰隆、山本司郎、大原寛明、木村陽子、小村江美、玄富翰、永野恵子、橋川一雄：腎機能の低下した症例に対し、少量の造影剤の使用で Penumbra システムによる血栓吸引を実施し再開通を得た一例：日本神経学会第101回近畿地方会：神戸：2014年12月

B-8

山本司郎：脳梗塞の治療。第48回おおさか健康セミナー 大阪市、2014年10月